

轉地保育の實際

大寶幼稚園 尾崎トヨ

(左の一篇は去る十月發布せられたる「第一回大阪市立幼稚園
共同研究會研究報告」より抜萃轉載せるものなり)

一、轉地保育の目的

本園は市の中央部にあつて設備極めて不完全、
周圍頗る雜鬧、加之小學校に附設してあるから、
遊園もなければ、砂場もない、學校の教授時間の
隙を見て其運動場を借らなければ、遊戯も運動も
出来ない有様である従つて自然の恩恵には全然遠
ざかつて、青い物を見ず、日光にも觸れず薄闇い
室の内に可憐な幼児が蠢動して居る、幼児の家庭
生活も亦大都市中央部の居住として大差はない、
幼兒は園に來ても家に歸つても、共に自然の恩澤
に接する機會はない、従つて年を追うて身體虛弱
に傾き疾病に對する抵抗力弱く、引いては感情鋭

敏、意志薄弱の弊に陥らんとして居る、本園の轉
地保育は此缺陷を補ひ此病弊を救はん事を目的と
する、されば此大目的を主眼として次に左の諸點
には特に意を用ゐる目的の實現に努めたのである。

一、大自然に接觸せしめて幼兒の心情の陶冶に
資する事

二、自然物利用の作業的保育によりて、幼兒心
身の開發に資する事

三、適宜なる遠足、運動によりて、體力の増進
に資する事

四、保姆と起臥を共にして、家庭的温情により
陥り易き學校式保育の缺陷を補ふに努める事

二、準備及計畫の概要

- 一、場所 京都府葛野郡嵯峨村嵯峨尋常高等小學校を中心としたる林間(宿舍は同校裁縫室、教室の一部及記念館)
- 二、期間 大正七年八月一日より同八日迄
- 三、經費 幼兒と附添人にて食費、寢具借賃、電車、汽車賃其他にて金八圓
- 四、附添人 幼兒には必ず十五歳以上の女子を附添はしむ
- 五、携帶品 着替寢衣各一枚、胸前掛一、猿股一縁廣麥藁帽子一、腹巻一、塵紙二折、手拭ハンカチーフ各一、麻裏一、足袋一、石鹼櫛(女兒)枕二、毛布一
- 六、日々行事 起床(午前六時頃)洗面 人員検査、深呼吸、朝禮、庭園散歩、朝食(午前七時)、臨地保育(同八時より十一時)、晝食(同十一時)、午睡(正午より二時)、入浴(同四時)、問食(同三時)、夕食(同五時)、自由散歩(同七時迄)、就寢(同八時)
- 七、臨地保育の場所

月 日	行 事 (午前)	行 事 (午後)
八月一日	清凉寺	渡月橋
同 二日	小倉山、常寂光寺、龜山公園、嵐山	大堰川 京都見物
同 三日	大覺寺、大澤池、今林陵	加茂川納涼
同 四日	法輪寺、嵐山温泉	
同 五日	小楠公首塚、厭離庵、二尊院	天龍寺
同 六日	野々宮、清凉寺	
同 七日	大堰川水邊、龜山公園	

- 八、幼兒數及附添人の種類
男 十一人 女 八人
母 三人 祖母 三人
姉 二人 下婢 六人
- 九、保育者、園長及保母、五名
- 十、保育用携帶品 畫洋紙百枚、半紙三折、臺紙百枚、色鉛筆百本、繪具及繪筆
鍍二十挺、色チヨーク、竹籤二把、糊粉、糊篋二十本、摺紙二百枚、切抜繪二十枚、針三十本
押ピン一箱、捕虫綱二十個、報笛五個、嗟島名

勝一冊、望遠鏡一個、衛生用具一式

一、宿舍の設備、宿舍は前記嵯峨小學校裁縦室（廿五坪押入二ヶ所本床付）を幼兒の控室兼寢室とし隣普通教室（廿坪）に疊を敷き、之を食堂湯呑場休憩室とし、御大典記念館（高節館）を應接室及朝禮の場所とした、何れも廣濶なるが上に、周圍の硝子窓を通して曠野又は森林を望み、採光通風共に良好に風景亦佳、晝間は蟬の聲絶えず、涼風常に訪れて夏日の苦熱を知らず。又雨中體操場の開放によりて、オルガンあり、運動遊戯具あり、千三百坪餘の屋外運動場には樹木あり、藤柵あり、鞦韆、二臺、肋木等運動遊戯に不自由なく、飲料水も亦清冽飲用に適し、凡て大都市幼兒の轉地保育の宿舍として間然する所が無かつた。加之此宿舍の所在が日臨地保育豫定地の殆ど中間に位して居た事は實施上頗る便利であつたのである。

二、保育者の特に留意せし要點

(イ)大自然に對しての幼兒の反應如何

幼兒の發問、感想、書き方等に現はるゝものによりて知る

(ロ)幼兒の觀察力如何

(ハ)幼兒の最も喜ぶ場所如何

(ニ)自然物に接觸して起る遊びの種類如何

摸倣か、創意か、平素の保育より現はれたるものか、環境より誘導せられたるものか等

(ホ)幼兒の機械的遊具に對する態度如何

平素都市の中央にありて機械的遊具のみによりて保育せられつゝある幼兒が田園の自然に接して後此等の機械的遊具に對し如何なる態度をとるかを仔細に觀察する事

(ヘ)幼兒の神佛に對する崇敬心如何

(ト)食慾の變化如何

(チ)食物に對する好惡如何

(リ)遠足による疲勞の程度如何

(ヌ)幼兒の活動量の測定

(ル) 幼兒個性の觀察

三、保育實施狀況

一、保育の場所 嵯峨村附近一帯の地は都市炎熱
雜鬧の域を離れ西に打つゞく愛宕山、小倉山、
嵐山等の峯高く、大堰川の流清きに加へて、神
社あり、古刹あり、數知れぬ名所、古跡各所に
散在し且到る處樹林竹藪あり、蟬鳴き、鳥遊び
蜻蛉飛ぶ、草花咲き亂れ、邑には蔬菜の種々豊
かな實を結んで居る、此自然界の無限の趣味は
事毎に幼兒の興味を引き、好奇心を惹起し、不
知不識の間に幼兒の睿知を啓發させ、爲めに幼
兒活動量平日に倍し、而も疲勞の様を見受けな
かつた。

二、臨地保育 毎日午前中幼兒を引率し、別表の
如く神社、佛閣、名所、舊跡を訪れて臨地保育
した、日々異りたる場所に赴く事は幼兒の最も
喜ぶ處であつた、且電車、自動車等の刺戟もな

く、靜かな野邊に草を摘み、花を採り、松毬を
拾ひ等して目的地に到り、幼兒の小さき腦裏に
て解し得る程度に簡なる説明を加へ、神佛に對
しては禮拜をさせた。尙風涼しき樹下、清淨な
る石階等彼等の意に任せて休憩し、談唱、描き
方、自然物を利用して種々の遊びを工夫し、或
は自由遊戯をなす等全く幼兒の意の嚮ふがま
に遊ばせた。

三、室内保育 室内に在りては幼兒の欲するまゝ、
談話唱歌をさせ、摺紙切紙等の材料を與へ、家
族合せ、繪合、玉落し、糸掛等をさせた、就中
彼等の最も好む所は、自然物を材料として、玩
具を工夫製作し、又實生活の模倣をなす事であ
つた。

四、自由遊戯 午後附近の林間或は校庭に於て行
つた、全く何等の拘束を加へず、幼兒の爲すが
まゝに委せた、小川に水遊をなし、目高を追ひ、
樹間の蟬を取り、蜻蛉を追ひ、又は庭に出で、鞞

鞆をなすもの、二臺を使用するもの、或は植込の木蔭に蕨蔭を敷きて談唱し、家庭遊をなす等凡て幼児の自發活動に任せた。

五、食事 附近の旅館より運ばせた、保母も幼児も付添ひも同時に食堂に會し一定の副食物に些の不平もなく談り笑ひ時には幼児が争つて保母の給仕をすることもあつた。多くは人手を借らず、自分の事は自分でさせ一同和氣藹々の裡に食堂を閉づるを常とした。又臨時保育中幼児が歸るを忘れ遊びに餘念なき時は便宜食物を附近の林間に運ばせ蟬の聲を聞き他の遊を見ながら晝食させることも度々であつた。

六、間食 様々の遊びに氣も心も奪はれた幼児も午後三時頃に與へる間食にはさすがに舌鼓を打つた。幼児の笑顔、喜悅の様今も尙忘れられぬ。間食はかくてこそ眞の意義があると思つた間食の品々はパン、キャラメル、カステラの類であつた。

七、午睡 晝食を終へて幼児は各自體の汗を拭ひ帶紐を寛にし腸卷をさせ風通しよき室に毛布を敷き腸部には小蒲團或は毛布の類を被ひ心地よき眠に入らしめた。

八、睡眠 睡眠は幼児に最も大切なる上に全く環境の異つた地に變化ある生活をなす事として其活動量も平日に比して遙かに増加した爲め疲労も之に伴うて甚しかるべきを想うて夜七時頃より就床の用意をなし一同集まりて在阪父母の健在を祈り相互に挨拶して就褥させ朝も自然に目覺むる迄放任して置いた。保母は各蚊帳の内に一人づつ附添ふ豫定であつたが都合上隣室に臥床することゝしたので幼児は四人づゝ交代に保母の所へ「お泊りに行く」と稱し大喜びで枕を携へ附添者を離れて保母と共に就寝した。

九、衛生狀況 衛生上の注意 飲料水は必ず一度煮沸したものをを用ゐ且其量に注意した。

運動戶外遊戯の後には必ず行水を爲さしめ汗流の豫防をした。

食事の前には必ず手を洗ひ口を嗽がしめた。

食事の際咀嚼の程度に留意し早食ひ暴食を戒めた。

間食物の購入には特別の注意を拂つた。

日々の食事は必ず献立表を取り新鮮なる野菜を主とし嗜好と消化に適するものを選んだから漸次食欲増進し發病者一人もなかつた。

三、轉地保育の效果

一、知能に及ぼせる效果

(イ) 幼兒の觀察範圍 松、竹、梅、楓、櫻、杉

槇、柊、桐、檜、柳、桑、藤、茶、柿、南天、

枇杷、夾竹桃、木槿、石榴、椿、要の木、百日

紅、合歡木、栗、(以上樹木)

萩、薄、桔梗、野菊、紫露草、ハルシヤ菊、嫁

菜菊、鶏頭、雁來紅、薔薇、磧撫子、岩躑躅、

鷹の瓜、蓮、百合、朝顔、白粉花、芳仙花、夏

水仙、著萩、灸花、溝蔘、紫陽花、せんぶり、

クローバー、矢萩草、車前草、蚊帳草、石鈎草

負ばれ草、續き草、日蔭蔓、ゑのころ草、酸漿

血止草、雀の稗、蚤の綴、八重葎、苺繫、雀の

豌豆、雀の鐵砲、都草、母子草、現證據、毒だ

め、蕨、羊齒、杉苔、錢苔、(以上草花類)

茄子、南瓜、胡瓜、水瓜、糸瓜、大角豆、隠元

豆、里芋、甘藷、馬鈴薯、葱、牛蒡、栗、黍、

玉蜀黍、稻、大豆、小豆、大根、生姜、胡麻、

人參、(以上穀菜類)

蟬、兜虫、機織蟲、蝨期、馬追、蟋蟀、螢、蟻

蜂、蚊、蟻子、蚯蚓、芋蟲、蝶、蜻蛉、蓑蟲、

(以上昆蟲類)

鯉、鮎、鱒、目高、田螺、水澄、いもり、龜、

蛙、(以上水中動物)

鴉、鳶、雀、鳩、白鷗、鶺鴒、(以上鳥類)

(ロ)、觀察より生じたる幼兒の發問

山どうして出来ましたか。

山はなせ青く見えますか。

なせ嵐山と云ふ名がついたのですか。

支那で一番高い山は何と云ひますか。

米國で一番高い山は何と云ひますか。

愛宕山は日本で何番目の山ですか。

大堰川より大きな川がありますか。

大堰川の水は何處に行きますか。

日本で一番大きな川は何川ですか。

電車の走る時なせ青い火を出しますか。

電車が動くとなせ涼しいですか。

電車はなせ速い遅いが出来ますか。

星はなせ光りますか。

夏は暑くて冬はなせ寒いのですか。

夜と晝となせ出来ますか。

人間はなせ高い人と低い人と出来ますか。

夏と冬となせ花がちがひますか。

獸の中で一番よいものは何ですか。

墓は人を埋める所ですか。

正行の首が埋てあるんですか(小楠公首塚にて)

鷹司さんの死骸がほんとにあの中に入れてありますか。(故鷹司公の墓にて)

私等の寫眞は外國まで行きますか。(外國婦人の撮影せし時)

あれは白水ですか。(岩に碎ける水を見て)

これは葱ですか。(水仙を見て)

空はなせ青いですか。

蟬はどこで啼きますか。(啼くしかけは何處かの意)

(ハ)、觀察より生じたる幼兒製作物

(一) 摺紙製作物 鶴、龜、蟬、蝶、バッタ

蜻蛉、舟、風車、額兜、三寶、ボート、千石舟、狐の面、香箱、宮様、さつき、蓮の花、菊の花、提灯。

(二) 自然物を利用したる貼付模様物。

蝶模様(萩の葉を千) 三枚笹模様(笹葉にて)

中心模様(松葉楓の實日蔭蔓野菊ハルシヤ菊藤の葉荒地野菊毒だめ紅葉等にて)

七寶つなぎ(雨天の葉)

風景を現すもの、野邊の景色(稻葉及楓の實にて)

月にほとゝぎす(豆藤の葉にて)

月夜の漁船(笹葉にて) 菊花壇(野菊と蓬の葉)

野の景色(野菊にて菊畑を作り雨天の葉にて蝶を飛ばす)

紅葉の景色(紅葉豆藤等にて)

水邊の景色(萩の葉にてあやめの花を作り日蔭蔓にて藻を現はし羊齒にて蜻蛉を作る)

流れ紅葉(紅葉にて)

水邊の景色(垂藤雨天の葉にて)

三保の松原(小松にて) 家(羊齒にて)

海底(羊齒を藻とし木葉を以て魚を現はせり)

壓葉標本 十五種

(三) 描き方成績物

嵐峽寫生畫(三十二枚)

法輪寺より嵯峨一帶を見たる寫生畫(二十枚)

植物寫生畫(五枚) 想像畫(八枚)

(四) 切抜貼付製作物

姉と妹との園藝、水族館、前裁とお座敷、

田舎の景色、母と手紙を讀む兒、海水浴、

蝶娘、子供、お臺所、水邊の鶴等

(ニ)、自然物利用の遊び

(一) 室外の遊び 蟬捕、蜻蛉追、虫捕、螢

狩、目高すくひ、水遊び、花摘、二遊び、

石蹴

(二) 室内の遊び、松毬排べ、椿及檜の葉(草履を)

る 柊の葉(風車) 桑の葉(巾着)

石釣草(石を釣る) 蚊帳釣草(蚊帳)

續き(續き目を云ひ當てる) おばれ草(他人の背に負はす)

矢萩草(矢の形に切る) 合歡木(眠らす)

やいと草(花を手豆につけて灸の形とす)

車前草(穂二本を折りちがへて) 夏水仙(漏斗)

芋の葉(笠又は水玉遊び) 笹(笹船、笹巻)

笈(雨傘) 酸漿(人形) 木槿の花(染物)

鱒つなぎ(洋傘) 日蔭蔓(ボンネット)

松葉(鏡、鐵砲) 楓の實(蝶) 蜘蛛の巢(鏡網)

王蜀黍の皮(舟、女の髪) 胡瓜(舟、望遠鏡)

南瓜(提灯) 茄子(馬、牛、鹿、豚、鶴) 隠元豆(鶴)

其他種々の花又は葉を以て花束、花輪、胸飾、簪、ボンネット、花壇等を作りて遊ばせた。

二 感情生活に與へた效果

(イ) 自然に對する趣味を養ひ得たること。

(ロ) 幼兒と保育者と長く起臥を共にしたので相互間極めて密接に母子的情味が溢れ、皆安心して愉快なる日子を過したること。

(ハ) 苦樂伴へる環境内に共同生活を營みたることゝて、幼兒相互の友愛共同の情が、いぢらしきまでに發露したること。

(ニ) 花を見ては佛様に「お供へする」、蟬の死たるに葬禮をなし、墓を作り供花する等、やさしき宗教的感情の流露したること。

(ホ) 弟に與へるとして石を拾ひ、或は採集した

るものを歸阪の上父母の土産にせん等、家人に對する美はしき感情の露はれたること。

三 蝶の上に及ぼせる效果

(イ) 主我の情強く我意を通するの蝶に效果ありしこと。

(ロ) 放姿にして締りなき幼兒を規律ある生活の下に置きて矯正するに效果ありしこと。

(ハ) 常には母又は女中の手を借りて爲す事も人手を要せず進んでなし、自ら獨立自活の氣風を養ふに效果ありしこと。

(ニ) 朝寢の習慣を矯正せしこと。

(ホ) 無口、沈鬱、引込み勝ちの性質を活活ならしむるに效果ありしこと。

(ヘ) 其他幼兒に適したる日常禮儀の蝶に頗る利益ありしこと。

四 身體的方面に及ぼせる效果

(イ) 幼兒活動量の測定

幼兒活動量を計數にて測定した。夏は比較的

活動の鈍きものであるが、今回の如く全く環境の異なる所にありては、意想外に多量を示した。多きものは一時間五千二百を示し少きも千三百を數へた。平均一時間三千六百の活動量を示したことになる。今幼児の歩幅を一尺と假定し一回の活動を一步として算すれば一時間に約十町を歩みたるものを見ることが出来る。従つて幼児は一日約三里半の活動を現はしたと云ふことが出来るのである。こは氣溫大阪に比して低く（別表參照）環境亦活動に適したからである。

氣溫比較表

月 日	天候	嵯 峨 大 阪		
		朝	日 中	日 中
八月一日	晴	九十三度	九十四度	九十七度七
八月二日	晴	七十七度	九十五度三	九十八度六
八月三日	晴	七十一度	九十五度	九十七度三
八月四日	晴	七十七度	九十四度	九十六度
八月五日	晴	七十八度	八十九度六	九十五度

八月六日	晴	八十度	八十九度四	九十三度三
八月七日	曇后雨	八十三度	八十七度	九十度五

右の比較表から見れば嵯峨の日中も初め二日は相當に高温であつたけれども其他は餘り暑さを感じなかつた。元來此地では八十五度以上上ることは一日僅々三時間餘（午前十一時半より午後二時半）で他は大抵其以下である。加之周圍に山水森林が多いから溫度の割合に凌ぎ易いのである。

(ロ) 臨地保育の身體的效果

前記の通り毎日豫定を定めて名勝舊跡を訪ねて臨地保育を行うたことは、身體的活動に馴れさせた點に於て頗る效果があつた。食慾の増進は云ふまでもなく、皮膚赤褐色を呈し抵抗力を増し活動持續の力が著しく養へたやうに思ふ。

(ハ) 遊戯による效果

環境の全然異つたため兒童の遊びの方面も著

しく變つたことは前述の通りである。これが

智能開發の良手段となつたばかりでなく、身體的方面に及ぼした效果の偉大なるは言ふ迄もなからう。蟬捕、蜻蛉追ひ、虫捕、螢狩、目高掬ひ、水遊び、花摘など轉地保育でなければ到底味はれない遊びであると共に、運動として頗る意義あるものであると思ふ。況んや宿舍としてあてられた學校の運動具が一切開放使用に任せてあつて幼児は思ひ／＼に之を以て遊んだのであるから、本園の如き設備不完全の處に育つた幼児としては、身體的に無上の幸福を與へられた譯である。

五 保育者の得たる利益

これは殊更に轉地保育の效果として擧ぐべきものではないけれども今回の轉地保育によりて幼児の個性觀察上保育者の得た利益尠少ではなかつた本園では今回の轉地保育中特にまとめて個性觀察表を作つたが之は發表すべき性質のもの

でないから茲には省く。

五、結 論

以上杜撰ながら大體本園最初の試みたる第一回轉地保育の概略を記述した、固より唯一回の實施で彼是言ふは早計に過ぎるの嫌はあるけれども、大都市の幼児生活の上に幾分の教育的影響を與へて、而も其影響が可成善且大であつたことを確信するのである、就中身體上に及ぼせる效果智能啓發上注意力養成自然物利用の工夫創作の力の涵養感想生活の醇化等に與へたる效果は至大であつたと思ふ。一週間の間一人の病人も出さず四歳未満の幼児すら一度も母を呼び家を戀しがつたものなく極めて愉快に日を送り附添人亦よく保育者を授けて公德を重んじ公平を主とし最も衛生に注意し互に相助けて萬事に遺憾なからしめたことは特筆に値すると思ふ。